

京林大だより

No.21



絵:卒業生 熊走君

全国から若者参集 オープンキャンパス今年もにぎやかに開催

ハーベスタ

アームの先に
チェーンソーが
付いています！



フォワーダ

山道で丸太を
運搬します！



8月1日、今年もオープンキャンパスを開催しました。林業大学校は開校して4年目。嬉しいことに、年々知名度が上がり、全国各地から林大に関心を寄せる若者がやってくるようになりました。

学校の概要説明と併せて京丹波町の魅力をPR。屋外では、現役林大生がチェーンソーで丸太を切断。そして、立木を伐り倒し運搬する高性能林業機械の実演。

未来の林大生は、迫力ある大型機械を食い入るように眺めていました。

キャップストーン研修始まる！

9月からキャップストーン研修が始まりました。森林組合や林業会社など林業事業体の皆さまに協力いただいて、学生(2年生19名)が実地研修を行うものです。

2ヶ月間、林業の現場作業を体験して、仕事のやりがいと厳しさを学びます。



★わちふるさと祭り★ 林大生が出店

わちふるさと祭りの一角で、京丹波森林組合と林大が共同して小さなお店を開きました。ねらいどおりの重さになるように見当をつけて丸太(間伐材)を切るゲームコーナーです。森林の恵みを身近に感じる素朴な遊びに子供たちの歓声が絶えませんでした。



8月22日 和知駅前にて



校長室より

今月の授業参観

『伐木・造材実習1』



林業に携わる上で、立木を伐倒する技術をきちんと身に付けることはとても大切なことです。チェーンソーを初めて手にする学生も多く、機械の扱い方を基礎からみっちり学びます。常に安全作業ができるよう実習を繰り返します。



『須知農林学校に』

校長 只木良也

70年前、終戦の年1945年の8月8日、山陰線下山駅に京都市の小学生(正しくは国民学校生)4-6年生約60名が降り立ちました。4人の先生に引率され、約1時間歩いて着いたのが、須知農林学校(現須知高校)の2階建ての養蚕室。それが小学生一行のその夜からの住処と教室となりました。戦局悪化、爆撃も予想される京都からの学童集団疎開でした。私は、その6年生の一人だったのです。

1週間で8月15日終戦。聞き取りにくいお昼の玉音放送、何となく「戦争負けた？」のささやき、そんな中で、夜になって担任の先生が短刀を研ぐのを見るショックもありました。

終戦にはなったものの、ますます混乱の時期、京都にはすぐに戻れず10月末まで、養蚕室住まいでした。

この間、地元の方々には、食べ物の調達

を始め、お世話になりました。本当に良くして頂きました。豚を目の前で解体して振舞ってくださった豚汁は今も記憶に鮮やかです。今その同じ京丹波町に新設の林業大学校の校長の任にあること、私には何か因縁めいた感じがします。「里帰り」の気持ちです。

こんな私の「丹波疎開」という過去を知った京都新聞が取材に来て、昨年、掲載記事にしてくれました。その日付は、何と8月15日(2014年)でした。

その中には、私の校長としてのモットー「地域とともに歩む学校」を書いてくれました。また、私の疎開時代にまだ植えて間の無かったヒノキ林(1940年-紀元2600年記念植栽)の管理に京都林大が関与することになったことも、記事にしてくれたのでした。今回は、ちょっとプライベートな話題で・・・。